

評価者	こどもみらい部長	進藤 勝
-----	----------	------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

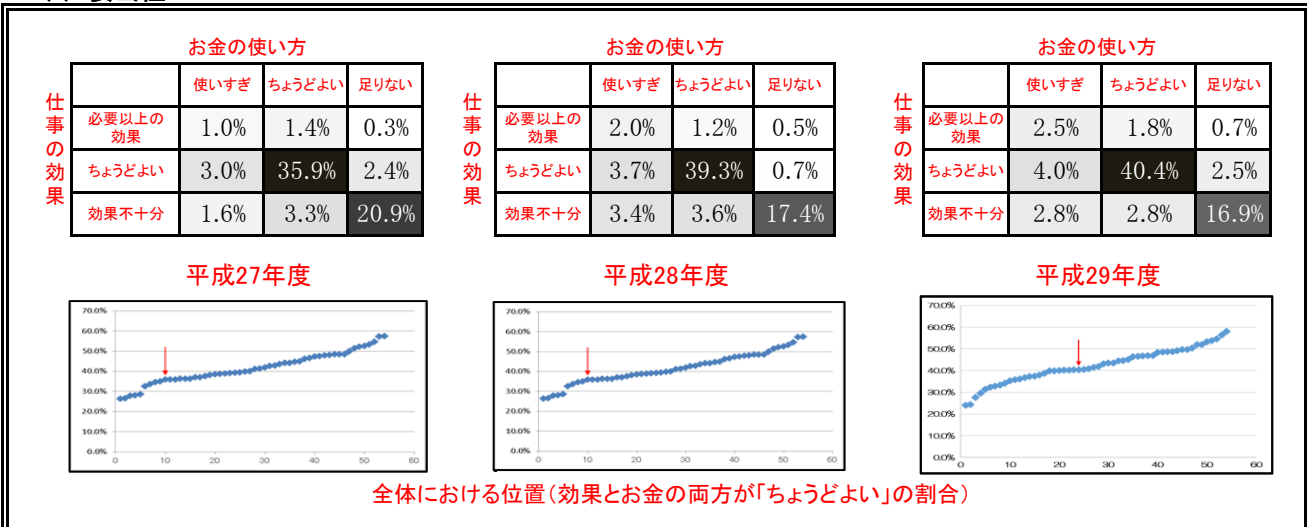
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	子育て支援施設の整備
目標とすべきまちの姿	子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、すべての子どもたちが健やかでびのびと成長できる環境が整っています。また、保育施設の整備が進み、待機児童数が減少しているとともに、子どもの家(学童保育)の利用者数の増加に対応した施設の整備が図られています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	24.9%	平成28年度	23.4%	平成29年度	21.1%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	28.8%	40.2%	5.3%	25.7%
平成28年度	27.2%	40.5%	4.3%	28.1%
平成27年度	30.9%	36.6%	2.3%	30.2%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

①空き教室を利用している深沢小学校および関谷小学校の学童保育施設について、情緒支援学級の開設等に伴い、学校敷地内に建物を設置し、移転をするための作業に着手する。また、旧図書館に耐震改修および整備工事を施し、「御成子ども会館・子どもの家」として整備することが決定したため、平成29年度に実施設計および建築工事を実施する(こども-06、28)。

②由比ガ浜こどもセンター建設工事を完了させるとともに、施設の大規模化に対して必要な備品等を整備していく(こども-08、17)。

③岡本二丁目の施設計画の策定過程において、建物規模に影響を持つ建設予定敷地の一部境界を改めて確認する必要があることが判明し、施設開所予定時期が遅延する可能性があることから、用地計画作成時点で想定された「喫緊の課題」に対応するための導入施設の取扱い、用地計画作成時点で想定されなかった新たな課題への対応を含めて、導入機能の再検討を行う(こども-09)。

④待機児童対策の推進及び保育に係る供給水準の維持のため、引き続き、保育所整備及び施設老朽化に伴う建替え事業等に対し補助を行う。(こども-16)。

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

①②③④由比ガ浜こどもセンターや学童保育施設(深沢・関谷・御成)といった公立施設の整備を進めるほかに、私立保育所の運営維持や学童保育の民間参入に対しても支援を行い、市全体の子ども支援環境の整理を進めることで、子どもたちがのびのびと健やかに成長できる環境が整備される。

**(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)**

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
こども-06	子ども会館・子どもの家整備事業	8,677	66,536	84,276	192,000	2.3	1.9		a	C
こども-08	公立保育所整備事業	335,052	862,371	872,399	13,879	1.3	1.6		a	C
こども-09	子育て支援施設等整備事業	6,934	0	7,713	2,415	1.0	0.3		b	A
こども-16	私立保育所等整備事業	233,844	77,717	89,684	280,980	1.5	1.5		b	A
こども-17	公立保育所整備事業	0	36,593	44,571	5,709	1.0	0.5		a	C
こども-28	子ども会館・子どもの家整備事業	9,395	28,392	39,200	3,303	1.3	0.4		a	C

**(4) 主な実施内容**

【主な実施内容】
<p>①「ふかさわ子どもの家」については、学校隣接敷地に単独建物で移転整備することとし、入札により賃貸借契約を締結し、設置工事に着手した。「せきや子どもの家」については、学校敷地内に単独建物での移転整備することとし、入札により賃貸借契約を締結したほか、予定敷地にあった学習用施設(田畑)を学校敷地内で移設した。「おなり子ども会館・子どもの家」については、実施設計実施後、耐震改修及び増築工事の入札を行い、工事着手した。(こども-06、-28)</p> <p>②由比ガ浜こどもセンター建設工事を完了させ、施設を開所した。由比ガ浜こどもセンター建設工事に起因する損傷の有無を確認するための周辺家屋の事後調査を実施した。(こども-08、17)</p> <p>③岡本二丁目用地施設整備検討委員会において、予定している機能の一部が当該地の用途区域に適合していないこと、実際に設計業務に移行する場合の業者選定の方式など、設計着手までに整理をしておくべき課題の共有した。土地境界に関する課題については、都市整備部道水路管理課により、筆界特定制度の申請が横浜地方法務局に行われた。(こども-09)</p> <p>④御成町在宅福祉サービスセンターにおける小規模保育施設設置に係る改修費用および認可保育所設置に係る改修費用に対して補助金を交付したほか、保育所の大規模修繕に係る工事費用に対して補助金を交付した。フラワーセンター大船植物園本園苗ほ跡地を賃借も継続している。(こども-16)</p>
【実施できなかった事業とその理由等】

**(5) 平成29年度の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**

- ・学童保育施設(子どもの家)の待機児童対策を喫緊の課題として捉えており、早期解決に向けて、積極的に施設整備を進め、計画とおりに施設整備が進んでいる。・学童保育のニーズは年々増加しており、事業実施は妥当と考えており、有効に成果が得られている。(こども-06、28)
- ・由比ガ浜こどもセンターの整備事業は、重要で緊急度が高い事業であることから、関係各課とより緊密な連携を図りながら、事業の確実な推進に努め、計画のとおり施設を開所できた。(こども-08、17)
- ・岡本二丁目用地計画に示しめされた期間よりも課題整理による遅延の可能性が見込まれているが、関係各課とより緊密な連携を図りながら、遅延の計画している複合施設が導入機能による相互の機能を確保できる施設となるよう協議検討を行った。(こども-09)
- ・保育所を設置する事業者に対し安心こども交付金事業費補助金及び保育対策総合支援事業費補助金を交付し、私立保育所等の安定的な施設運営に資する支援を行った。(こども-16)

**(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

<p>・子ども会館・子どもの家整備事業については、学童保育のニーズ量を確保するため、必要に応じて施設整備を進める。また、需要の増加に対して、新たな事業展開を図るため、民間事業者への補助金、指定管理制度の導入、放課後子ども総合プランの実施等の取組も含め検討し、ニーズ量の確保に努めていく。</p> <p>・保育園事業については、引き続き、公立保育所の効率的な運用を行うとともに、市内の私立保育所の整備等に対し補助を行い、待機児童の解消や子どもを安心して育てることができる体制整備を図る。</p>
--

**(7) 平成30年度の目標**

①「ふかさわ子どもの家」及び「せきや子どもの家」については、工事完了の後、移転開所する(深沢は平成30年6月予定。関谷は平成30年12月予定)。「おなり子ども会館・子どもの家」については、平成31年3月までに工事を完了させる。(こども-06)  
 ②由比ガ浜こどもセンター建設工事に起因する損傷が周辺家屋に確認されたため、この損害の補償を行う。(こども-08、17)  
 ③岡本二丁目用地施設の建設予定敷地の一部境界の疑義の解消に向けて、筆界特定制度の申請をしているため、この動向を確認しつつ、確認された諸課題について設計着手までに整理する。(こども-09)  
 ④引き続き、保育所の待機児童対策の推進及び保育に係る供給水準の維持のため、保育所整備及び施設老朽化に伴う建替え事業等に対し補助を行う。(こども-16)  
 ⑤待機児童を解消するため、受入人数を増やし待機の解消に努める。また、子ども・子育て支援新制度で、子どもの家職員の配置人数が義務付けられたことから、施設整備に併せて職員の確保を進める。(こども-28)

**(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性**

①②③④⑤引き続き、公立施設の整備を進めるほか、私立保育所の運営維持や学童保育の民間参入に対しても支援を行い、市全体の子ども支援環境の整備を進めることで、子どもたちがのびのびと健やかに成長できるよう環境が整備される。

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	こども-06、-28	事業名	子ども会館・子どもの家整備事業							
指標の内容	子どもの家入所者数					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値はH27.3に設定したものである。		
平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」では学童保育(子どもの家)のニーズ量の見込みに対して、平成31年度まで確保することを目標としているため。	目標値	-	1,691	1,673	1,686	1,666	1,666			
	実績値	1,355	1,649	1,719	1,765					
	達成率	-	97.5%	102.7%	104.7%					
整理番号	こども-08、09、16、17	事業名	公立保育所整備事業、子育て支援施設等整備事業、私立保育所等整備事業							
指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	平成30年度より待機児童の算出方法が変わり、暫時的待機児童が待機児童としてカウントされることとなったため、目標値の下方修正を行っている。		
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	5	3	1	0	30	15			
	実績値	55	50	44	47	93				
	達成率	9.1%	9.1%	2.3%	0.0%	32.3%				
整理番号	こども-08、09、16、17	事業名	公立保育所整備事業、子育て支援施設等整備事業、私立保育所等整備事業							
指標の内容	入所児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	待機児童数から算出した目標値に向け、施設整備を進めており、入所児童数の目標は概ね達成しているが、それを上回る新たな保育希望が発生するため、待機児童の目標値達成には至っていない。		
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	-	2,578	2,499	2,411	2,791	2,825			
	実績値	2,241	2,404	2,434	2,438	2,535				
	達成率	-	93.3%	97.4%	101.1%	90.8%				

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・子育てに関しては特に声を大きく上げたところに応える、という行政の姿勢を感じる。声をあげていないところに潜む問題にシフトチェンジしていく事業はどこにあるのか。
- ・岡本二丁目用地活用について、早急に計画、実施に至ることを望む。
- ・待機児童解消に向け、岡本保育園の新園及び明照フラワーガーデン保育園の早期開所による入所枠の拡充、聖アンナの園の建替え、(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設などを行っているが、今後は限られた財源のなかで、創意工夫が必要。既存施設の複合化などによる多面的な施設整備を視野におく必要もある。
- ・「量の見込み(事業のニーズ量)に対する確保方策を定め施設整備等を図っている。」のであれば、ニーズ量を目標値とした指標を設定すべきである。
- ・各事業が「効率的」に執り行われているのか分からない。
- ・指標をみると、いずれの事業もニーズに対してまだ不十分・足りていないと感じる。現状の目標で、どの程度改善できるのか、今ある施設計画の開所後でないと現状、評価しにくい部分はある。指標がどれだけ改善するのか、予測値のようなものは現段階であるのか。具体的ビジョンのようなものも示してほしい。



指摘への対応、コメント等

- ・平成30年度に子育てニーズに関する調査を実施し、市民ニーズの整理を行い、平成32年度に改定する次期子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン」の策定に反映させ、それに基づく事業展開をします。
- ・計画の根本に関わる土地境界の確定に向けた取組みを進めるとともに、計画している複合施設導入機能を確保できる施設となるよう協議を進めることで、状況を鑑みた対応ができるよう検討を行っています。
- ・施設の複合化や賃貸借による施設設置など施設維持管理に係るコスト効率を意識した整備を進めています。
- ・平成27年3月作成の子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン」において、保育所の整備目標は、国の施策「新待機児童ゼロ作戦」に合わせた指標設定としているため、ニーズ量ではなく、待機児童数を目標値としています。
- ・施設の複合化や賃貸借による施設設置など施設の維持管理に係るコスト効率を意識した整備を進めています。
- ・待機児童数については、各家庭の就労状況に影響のある経済状況や就労環境に対する社会情勢など様々な要因により変動するものと考えられ、施設開所後にしか実際の効果を評価できないというのはご指摘のとおりと考えております。そのため、効果目標を「事業実施に係る指標」として示しています。

提言

- ・待機児童0まで施設の整備は続くだろうが、預けるところがあるから働こうという親と、働かなくては養育が困難であるから預けるところを確保してほしいという親とを区別(申し込み時に点数化するのはわかっているが、それだけでは把握しきれていない部分の洗い出し)するのは人道的ではないのかもしれないが、やはりここは一度考えてみる問題ではないか。
- ・近未来の「人口年齢構造」(人口減少・高齢化)をベースに「子育て施設」の汎用的運用や他目的施設の併用なども検討すべきである。
- ・子どもの家・子ども会館の運営について、民間事業者による指定管理導入にあたっては、営利に走らないよう最新の注意を払ってほしい。出来るだけ、鎌倉市内の事業者、NPO等が望ましい。また、民間業者の参入の際は、保護者の不安がないようにしてほしい。
- ・民間学童保育施設への補助金交付については、それらがどの様に使われているのかを把握し、公表すべき。
- ・どの様な工夫によってコストを減少させたか、又は同一コストで予定以上の実施を行ったか等、効率性や対費用効果について評価し、明示すべき。
- ・目指すべきまちの姿の何を実現するために、どのように考えて具体的に何をし、結果どうなったかを明示すべき。



提言に対するコメント等(総論)

- 「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」が基本理念であり、子どもたちが健やかでのびのびと成長できる環境を整えるために、利用者数の増加している保育所や放課後学童施設といった子育て支援施設の整備を進めています。
- 施設整備にあたっては、材木座保育園と稲瀬川保育園を統合した由比ガ浜保育園を含めた複合施設である由比ガ浜こどもセンターの開所や学童保育施設についても賃貸借の方法により設置するなど、施設の維持管理に係るコストを意識した整備をしつつ、提供するサービスの質を維持・向上に努めています。また、児童施設の特性を考慮した上で、一部施設は、地域団体による多目的使用を認めることでの施設の効率的活用をしています。
- 学童保育施設における民間事業者の活用においては、交付した補助金については、実績報告により支出状況を把握しており、指定管理者の選定にあたっては、運営方針の提案などの観点からプロポーザル審査を行うなど、基本理念に沿った運営となっていることの確認をしています。また、指定管理導入施設にあたっては、保護者に指定管理制度の施設運営の説明を行っています。
- 効率的な子育て支援施設の整備につとめていますが、施設利用者数は、各家庭の就労状況に影響のある経済状況や社会情勢など様々な要因により変動するものであるため、平成30年度に子育てニーズに関する調査を実施し、今後に向けた市民ニーズの整理を行います。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

・待機児童解消に向けての様々な対応、また子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、子育て環境の充実にめざし、施設を整えつつあることは、評価できる。  
 ・非常に多岐にわたる子育て支援にかかわる事業を行っており、地域や関連機関との連携など、子育てに関する相談体制の充実が図ることがめざされている。近年、育児放棄や児童虐待が実数として少なくなっていることはよい傾向と考えられる。

		評価の内訳						⇒		委員会の評価	
取組	↗	4	↘	0	→	3			↗		
効果	○	0	△	1	—	6			—		

### 《課題》

・待機児童解消に向け、御成町在宅福祉サービスセンターにおける小規模保育施設の設置、(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設など。今後は限られた財源のなかで、創意工夫が必要であろう。既存施設の複合化などによる多面的な施設整備を視野におく必要もあると考えられる。  
 ・子どもの家及び子ども会館のあり方を見直し、指定管理制度に移行した場合の課題の整理が必要ではないか。待機児童ゼロを目指すことは市民ニーズに応えることとして良いのだが、箱物を増やす以前に調査結果を分析し、実態を正しく把握してほしい。

### 《提言》

施設の維持管理がどのような取組の工夫で効率をあげようとしているのか、あれば記載が欲しい。

### 《質問》

・「目標とすべきまちの姿」にある「子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、すべての子どもたちが健やかでのびのびと成長できる環境が整っています。」について、何をもちて子育て施設が「充実」していると判断するのか？  
 ・「目標とすべきまちの姿」にある「保育施設の整備が進み、待機児童数が減少しているとともに、子どもの家(学童保育)の利用者数の増加に対応した施設の整備が図られています。」について、どのくらい「子供の家の利用者数」が増加すると、「施設」を増設するのか？基準は定められているのか？  
 ・「指標」の「子どもの家入所者数」について、実績値は上昇しているのに目標値は減少しているのは何故か？